

第2回 湖西市地域公共交通会議 会議録

日 時：平成30年9月19日（水） 14時15分～

場 所：湖西市立西部公民館 2階講座室

出席者：23人

会長	田中 伸弘	湖西市副市長
副会長	佐原 秀直	湖西市企画部長
座長	伊豆原 浩二	愛知工業大学 客員教授
委員	小野田 剛久 (代理：小林 廉)	遠州鉄道株式会社 運輸業務部長
委員	大久保 公雄	浜松バス株式会社 代表取締役
委員	杉浦 一徳	遠鉄タクシー株式会社 営業本部長
委員	平野 隆広 (欠席)	天竜浜名湖鉄道株式会社 常務取締役
委員	平野 洋一 (欠席)	(社)静岡県バス協会 専務理事
委員	久保田 素広	中部運輸局静岡運輸支局 首席運輸企画専門官
委員	鈴木 哲也	遠州鉄道 労働組合 副執行委員長
委員	大倉 篤 (代理：村松 由貴)	静岡県 交通基盤部 地域交通課長
委員	井倉 基	静岡県 浜松土木事務所 維持管理課長
委員	日内地 昭広 (代理：佐々木 秀喜)	静岡県湖西警察署 交通課長
委員	竹島 清一	湖西市自治会連合会 会長
委員	杉浦 徹衛	湖西市老人クラブ連合会 会長
委員	土屋 正征	湖西市社会福祉協議会 会長
委員	佐原 功一郎 (欠席)	湖西市商工会 副会長
委員	渥美 博之 (代理：田中 明彦)	新居町商工会 事務局長
委員	佐々木 由美子 (欠席)	市民委員
委員	小笠原 昌之 (欠席)	市民委員
委員	山本 渉	湖西市 健康福祉部長
委員	内山 賀津高	湖西市 都市整備部長
事務局	疋田 行彦	湖西市 企画部 市民協働課長
事務局	佐原 敬	湖西市 企画部 市民協働課 公共交通係長
事務局	伊藤 明生	湖西市 企画部 市民協働課 公共交通係主任

配付資料： 会議次第・湖西市地域公共交通会議委員名簿

(資料1) 「西部公民館」バス停の名称変更について

(資料2) 平成31年度コーちゃんバス事業者選定の実施について（白須賀新居鷺津線、岡崎鷺津線、知波田鷺津線）

(資料3) デマンド型乗合タクシーにおける評価基準（目標値）の変更について

1 開会

2 会長挨拶

本年3月より白須賀地区で実証実験を行っております、デマンド型乗合タクシーについて、8月の利用者は120人を超えており、着々と伸びておる状況です。本市の交通空白地域となっている他の地域でも導入を考えています。また、導入を検討するにあたりコーちゃんバスについては、ご利用がかなり少ない部分もございますので、減便を考慮しながらデマンド交通と組み合わせて、市民の皆さまに対するサービスを確保していく考えでおります。

3 報告事項

(1) 「西部公民館」バス停の名称変更について

<事務局>

- 資料説明（資料1）

<伊豆原座長>

- 名前の変更であって、場所が変わるわけではないので、ご理解いただけたらと思う。

4 協議事項

(1) 平成31年度コーちゃんバス事業者選定の実施について（白須賀新居鷺津線、岡崎鷺津線、知波田鷺津線）

<事務局>

- 資料説明（資料2）

<伊豆原座長>

- 書類として残しておくことに関して差し支えなければ、平成32年はないことになってますから、何とかありますか。

<事務局>

- 2019年の4月1日から2020年の3月31日までと訂正する。また、公開資料についても訂正したものを用意する。

<田中会長>

- 実際の契約書を結ぶ時はこの業務だけではなく、市役所全体の様々な土木工事から始まって様々な契約書が西暦にするのか和暦にするのか。ただ但し書きで新しい年号になった時には読み替えるという事か、いろいろとやり方があると思うので、それは市の中でまだ統一的な見解が出ていないため、それは見解が出しだい契約書は正しい方にしていきたい。

<伊豆原座長>

- 「別段の問題がない場合」というところに何か基準があるのか。業者の選定は市が行なう。この「別段の問題がない場合」というのは、この会議ではかるんじゃないかと、市の方で判断しますということですね。

<事務局>

- そうである。

<田中会長>

- 8ページに「契約の解除」という欄がある。これは、ここに書かれている場合について、市は契約を解除するという内容の項目である。そのため、ここに該当するようなことになれば、翌年度は契約しないという話である。

<伊豆原座長>

- しかし、そういう場合になったらコーちゃんバスは走らなくなる。そのため、きちんと運行するというを示す仕組みにした方がよい。途中で運行できなくなってしまいました、では困る方が出てくる。契約がなしになってしまえば、市民の方へのサービスもなしになってしまうので、最低でも次の運行事業者が決まるまでは走らせられるような仕組みにしておいた方がよい。

<内山委員>

- 資料2-1の3の(2)運行開始日の中に、路線の再編を行う場合という話があるのは、文脈としてあまりふさわしくない。また、米印の内容そのものについても、仕様書の中に書き込むとするならば、まったく別の項目に書くこむべきではないか。

<事務局>

- 運行開始日はあくまで2019年の4月1日である。米印以降については、開始日にそぐわないとの指摘を受け、この分について少し見直したいと思う。

<伊豆原座長>

- 予算が確定しない場合には契約を行わないものとする、とあるが、市の予算が確定しないということがあり得るとのことか。

<事務局>

- 選定で業者が決まった場合においても、市の予算が確定しない場合は契約ができないという旨をうたっている項目である。

<伊豆原座長>

- 国では時々あるが、地方自治体ではほとんど聞かない。ここまでのことを書くならば、ほかのことも全部書いておかなければならない。しっかりと確認をお願いしたい。

- これ以上の意見がなければ、今回の意見を整理して10月の運行事業者選定委員会まで市の方にお願ひするという形にしたいと思う。

(2) デマンド型乗合タクシーにおける評価基準(目標値)の変更について

<事務局>

- 資料説明(資料3)

<久保田委員>

- 現在行われている実証実験を踏まえて、何か問題や課題等を教えて欲しい。実施範囲が広がり、対象人口が2倍に増加するために、利用人数の目標が2倍になるのは理解できるが、その他に何か促進策のようなものはないか。
- アンケート調査を実施したということであるが、もう一度くらい行う予定でいるのか。

<事務局>

- 課題は乗合率の低さにあると思っている。しかし、6月末現在で1.06人であった乗合率は、8月末においては1.10人まで伸びている。しかし、他の自治体や目標値にはまだ届いていないため、これからも登録人数の増加や、乗り方教室の開催などを通して、数値の改善につなげたい。
- アンケートについては秋から冬にかけてもう一度実施したい。

<杉浦(一)委員>

- 事務局と一緒に人の集まる所へ出向いて説明会などを行ってきた。乗り慣れていただくことが一番の近道だろうと考えており、これからも様々な場所を借りて、説明会を多めに開催しようと思う。
- 予約時間についても、締め切り時間を1時間前から、湖西市内のみの運行であれば30分前であっても何とかできるだろうということから、利用者の方々の利便性向上ということで実施している。

<杉浦(徹)委員>

- 事務局では白須賀という地域がデマンド交通に適しているという判断で実験を行っているのだと思うが、コーちゃんバスという形態に満足していない他の市内地域があると思う。個人的にはもっと人口の密集している地域で試験をして、比較をしてみると意味が表れてくるのだろうと思っているが、いかがなものか。

<事務局>

- 市内の公共交通空白地域は白須賀、知波田、横山と分布しており、まず実験的に白須賀の地域の方々と協力して、空白地域を埋めるということで、デマンド型乗合タクシーを運行しております。また、こうした取り組みやその動向を他の地域の皆さんに出しており、地元の自治会長が集まる会議に伺い、デマンドとは何かというような説明会を開催している。そのため、まずは白須賀地区の実証実験で見通しを立てて、他の地域の導入について検討していきたいと考えている。

<伊豆原座長>

- 本格運行へ移行する決断はいつどのようにするのか。そういったスケジュールについてここで語らなければならないのではないかと。

<久保田委員>

- 20ページの基準はあってないようなもののような説明であるが、どのようにでもなる書き方ではなく、ある程度の基準は必要だと考えている。
- 目標達成のためには意識を変えていただくしかないということであれば、やはり地域の方々のところへ足を運んで、話をしていく他ないのではないかと。

<事務局>

- 目標値はあくまで目標である。これは来年3月末の段階でクリアできないものもあろうかと思うが、皆さんが一生懸命頑張っているという推移を示すことができたらいいと考えている。
- 地元との協議は月に1回以上行っている。また、目標についてもそういった場でどんな目標がよいのか一緒に考えている。

<伊豆原座長>

- 乗合率を高めるというのは結構難しいことだと考えている。皆さんが誘い合う習慣が出来るかどうかにかかっている。しかし、病院に行く際に誘い合うということは難しいため、必然的に乗合率は1になってしまう。逆に買物であれば、わいわい話をしながら乗り合っていることもあろうかと思う。上手に使っている人たちが説明をする会があると、失敗を恐れる高齢者にも優しい取り組みになるのではないかと。
- 行きの予約は良いとして、帰りの予約についてはどのような状況になっているのか。電話予約をお願いしているが、高齢者は携帯電話を持っていないことも多いので、そういった方へのケアはないか。また、ケアをしているのであれば、周知しているか。

<事務局>

- 病院などの医療機関に依頼をかけたところ、ほとんどのところで了解を得られている。周知に関しては至らぬ部分もあるため、これから努力していく。

<竹島委員>

- 浜松の「く・る・る」というバスは、目標とした数値に届かなかったら廃止するという報道があった。コーちゃんバスに関しても空気を運んでいるという話を聞くので、どんどん切られていってしまうことになって、またさらに利用率が下がるということになりかねない。公的なお金を使うために、採算性も大切であるとは思いますが、ただそれだけで切るとするのは、ぜひ一度議論いただけないだろうか。

<田中会長>

- 今話のあった収益性については厳しい面もある。しかし、湖西市は5つの主な地域があり、それらを結ぶ交通網が必ず必要であることは間違いないわけで、新所原から白須賀に移動する人が1人でもいて、非常に助かっているのであれば付加価値が生まれており、赤字なりの意味があるのではないかと考えている。

デマンド型のタクシーで間に合う部分は、そこに合った交通機関でということ、白須賀地区では実験を行っているが、コーちゃんバスもデマンド型乗合タクシーも利用者がいないという状態のその先の風景というのは、非常に殺風景であるため、公共交通を利用してもらえる知恵を絞っていかなければならない。

小学校や中学校にエアコンを導入するなど、湖西市全体のその他の議論も含めて同じ財布から出ているために、効果的なコーちゃんバスの見直しが求められていることがある。公共交通をいかに盛り上げていくのが非常に大事である。

5 その他

<事務局>

- 次回の地域公共交通会議は12月ごろを予定しており、詳細が決まり次第連絡をする。

6 閉会

<事務局>

- ・以上をもちまして、平成30年度第2回湖西市地域公共交通会議を終了いたします。

以上